

碓氷川水系霧積川墓場尻川左俣 山行報告書

【山 域】 西上州

【コース】 碓氷川水系霧積川墓場尻川左俣

【日 時】 平成30年5月5日（土曜日）

【天 候】 晴れ

【メンバー】 CL：上茂，大塚，石橋，小原，花島

【コースタイム】 霧積ダム墓場尻川出合 8:30 ~ 入渓点 8:40 ~ 三段滝 12:05 ~ 雌滝 13:10 ~ 旧中山道 14:30 ~ 下降点(標高点 909 付近) ~ 墓場尻川出合 16:55

【山行報告】

千葉を4時に出発し、渋滞もなく松井田妙義ICで降りるまでは順調だったが、「最後のコンビニは確かファミマだったと思う」を頼りに国道18号線（中山道）を軽井沢方面へ。ところが霧積ダムへの分岐に着いてもコンビニが無い。

「戻る？どうする？」「でもセーブオンだったよね」馴染みのないコンビニに不安を感じそのまま国道18号を進む。

「めがね橋だ。すごいね。」「アプトの道？アプトって何？」カーブの数が100を超え、流石に不安になる。

「軽井沢まで行っちゃうよ、コレ」で行動食をシェアすることで話がまとまり、途中の自販機で飲み物を購入して霧積ダムへ向かう。

霧積と言ったら映画「人間の証明」【森村誠一原作】のモチーフになったところ。ジョー山中の「♪ママー ドゥー ユー リメンバー♪」の歌と西条八十の詩「母さん、僕のあの帽子、どうしたんでせうね？ ええ、夏、碓氷から霧積へゆくみちで、谷底へ落としたあの麦わら帽子ですよ。」のフレーズで有名なあの映画です。

40年も前の映画ですが、あの頃を知る世代としては、松田優作という稀有な役者と共に強烈なインパクトを持って記憶に刻まれています。

今思うと何をそんなに騒いでいたんでせうね？角川の思う壺にまんまと嵌っていたんでせうね？

墓場尻川を横断する橋のたもとに駐車して、墓場尻川の左岸沿いのゲートのある林道を進む。堰堤を過ぎたあたりで適当に河原に降り入渓する。



(入渓点：堰堤を越えてすぐ河原に降り立つ)



(入渓からは穏やかな様相が続く)

出だしはノンビリした感じで段差程度の小滝やナメをヒタヒタ歩く。等級的には一級上。といっても地形図には墓場尻川という名前も滝記号も、しかももしかかも雌滝、雄滝という名前付きで載っている立派な川だ。いつもは、名前なんて当然載ってなくて、標高何メートルで出合う沢で、水線も自分で書き込んで、いざ現地に行っても出合を見逃したり、手前の沢に入ってしまう「ねえ、遡行

図と違ってない?」「えっ〜、ここまで来ちゃったよ。どうすんのよ。」の世界が嘘のような沢。結果から言うと、間違いなく入溪できる事が唯一評価できるってことの一級の沢なんじゃないのって言いたくなる。そうしないと自分のレベルの低さを思い知らされているようで、立つ瀬がない。

二人組の釣り人がいたので、右岸を直角に屈曲する箇所まで一気に高巻く。ついでにこの写真の滝もまとめて高巻く。



(釣り人がいたので屈曲箇所まで一気に高巻く)



沢幅いっぱい幅広のナメや手足の突っ張りで突破するらしい(背が低いのと、突っ張り途中で力尽きて落ちたくないなので今回は巻いてやった)狭窄箇所が出てくる。小さい巻きから狭窄箇所に戻る際に水に落ちるのをためらうくらいなら、始めからジャブジャブ浸かるか先まで巻いた方がいい。



大堰堤を越えて現れるのが、7~8m位ののっぺりした滝(記録によってはナメ滝表記もある)。途中に支点が取れずに落ち口付近がいやらしい。ここは上茂さんのリードで、後続は安心して登ることができましたが、あの一步を踏み出す強い気持ちを持ちたいと思う。高さがなければ、またランニングが取れば、また違うのでしょうか……。

登攀技術はもちろん必要ですが、Ⅲ～Ⅳではメンタルの要素が大きいのと思います。セカンドで登れたからといって、トップで行けるかっていわれたら尻込みしてしまいますよね。落ちて大丈夫と落ちられない局面では雲泥の差があるんですよ。トップに感謝です。



(トップでロープを伸ばす上茂さん)



(CS滝)

CS滝は端っからあきらめて高巻いていくとやがて三俣に到着し、下降に使う中俣の様子を覗きに行く。

しかし、もうお昼だ。このペースだと時間的に予定したコースを回るにはきつい。完全遡行は諦めて雌滝から旧中山道に上がることに変更する。



(三俣の先にあるナメ滝)

気持ちのいい沢でついついノンビリしたのが災いしたのか、ただ単に遅いのか。山菜は豊富で今晚のつまみにとモミジガサ、コゴミ、サンショウの採取に忙しい。鳥のさえずりも随所で聴かれ、ついつい立ち止まってしまう。



(三段の滝 上に二段目三段目がある)

そこからトラバース気味に下って沢に降りるのだが、途中灌木の切れ目があって怖い思いをする。三段の滝上に懸垂で降りることもできるが、その上にも滝が見える。巻きついでに上の滝もまとめて巻いて懸垂なしで沢に降り立つ。



(雌滝手前の三条滝)

自然滝の上に石積みの堰堤がコラボした妙にマッチングしてるようで、よ〜く見るとしてないような変滝を超える。

左俣に入りすぐ三段の滝が出てくる。一段目は行けそうだが二段目三段目の様子がよくわからない。確かにホールドは細かそう。記録にも落ちたり、結局巻いたりで苦労している箇所だ。今日は時間もない事だし止めておく。

高巻きは右側の急なルンゼを上り途中から左の尾根に取り付く。



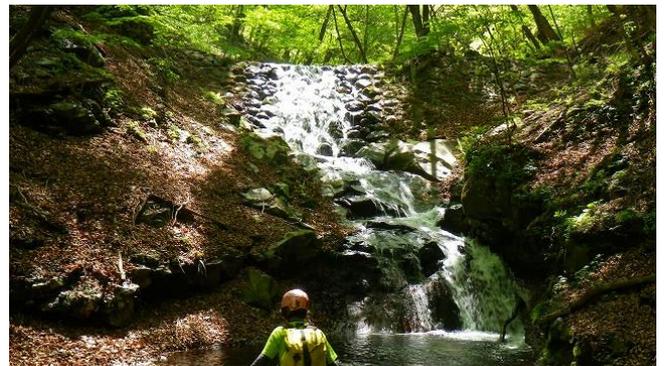
(ルンゼの高巻き)



(高巻きから沢へ下降する)

まだまだ続くナメと滝を超えるとやっと見えてきた雌滝。ここは記念写真を撮ってサッサと巻きにかかる。

この滝も登っているかと思うとレベルの違いを今更ながらに実感する。そんな人の記録を鵜呑みにして安易な遡行は控えたいところだが、これがまた行きたくなるものなんですよネ。



(自然滝と石積み滝のコラボ滝)



(雌滝全景 この滝も普通に登られているなんて…………。)



(雌滝をバックに記念写真も滝の大きさがわからない)



(雌滝の高巻き)

旧中山道から続く緩い尾根を目指して990m付近に流入する右岸の沢を地図で確認する。

沢を詰めると尾根に取付けないことも予想されるので、ここは末端から傾斜のキツイ尾根に取り付く。下草が目立つ緩やかな傾斜地を経て、それとなく踏み跡のあるなだらかな尾根に出た。

しばらく進むと松林になり、やがて車が通れそうな幅広の道を辿ると旧中山道にぶつかった。



(旧中山道と合流)



旧中山道だけあって江戸時代は多くの茶屋と寺もあって、明治初期には学校まであったらしい。

来週の5月13日(日)に開催される^{あんせいとおあし}安政遠足(今年44回目を迎える侍マラソン?)の峠コース(28.97km)にもなっている。



ここでもノンビリ山菜を採りながら下る。まるで畑のように群落している。墓場尻川出合に向かって、まるで半島のように伸びる尾根が、下降に使う尾根だ。めがね橋への分岐が目印。

尾根の乗り換え点で崖に出てしまい、登り返すより早そうなので懸垂で降りた後に乗り換える。

もう少し早めに乗り換えていれば、とは後で思うことで、地形図にはなんの表示もなく仕方ないといえば仕方のないことだと思う。

まあ懸垂も予期していたのでハーネスはつけたままの下降だったのでタイムロスは少なかったです。

その後は尾根を外すことなく順調に下り駐車場所に無事戻ることができました。以上

